



発行：地域力推進久が原地区委員会
編集：地域情報紙「くがはら」編集委員会
事務局：大田区久が原特別出張所
〒146-0085 大田区久が原4-12-10
TEL(3752)4271 FAX(3752)4514

久が原地区管内

<人口>	<世帯数>
男 14,184人	14,153世帯
女 15,037人	
計 29,221人	令和7年6月1日現在



都立雪谷高等学校長

まる も さとし
丸 茂 聡

自他を尊重できる
学校を目指して

4月中旬の昼休みに文化部の生徒が中庭でパフォーマンスを行い、周りでは多くの生徒が思い思いの場所で昼食を食べていました。ゆったりとしておらかな校風を感じた瞬間です。良き伝統や雰囲気を継承し、他者にやさしい人物の育成を目指して尽力してまいります。

新任のごあいさつ

どうぞ
よろしくお願い
いたします

大森第十中学校校長

わた なべ えい じ
渡 邊 映 二

保護者、地域と
ともに力を合わせて



本校は、今年度191名の新入生を迎え、全校生徒517名となりました。地域の皆様と協働して、子供たちを育てていきたいと考えております。今後とも、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

久が原東自治会長

なか じま すすむ
中 島 晋

住みやすい町に



このたび久が原東自治会長を務めさせていただくことになりました。

久が原は緑がまだまだ多く、安全などとても良い町だと思います。

この久が原を更に住みやすい町にするように努めて参りたいと思います。

皆様のご協力をよろしくお願い致します。

久が原西自治会長

まつ なが こう いち
松 永 幸 一

笑顔のあいさつ



久が原の皆様“こんにちは”

久が原に生まれ、育てられ、良い環境の中に生かされている喜びを常に感じています。地域の絆を更に強いものにできたらと願い自治会活動に努めていきたいと思ひます。

皆様と協力して、安全・安心の町づくりに努力してまいります。よろしくお願いいたします。

ヒルズ久が原自治会長

すず き やす お
鈴 木 康 雄

多くの人がつながる
自治会



日頃より自治会活動に、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

私は大森で育ち、ヒルズが竣工してからこの地に住み、15年前より自治会活動に参加するようになりました。

当自治会もコロナ後、自治会活動の参加者数も減少する傾向にありますが、会員様等のご意見もお聞きし、皆様とご一緒により多くの人がつながる自治会をつくらしていきたいと思ひます。

初めてのことで至らない点もあると思ひますが、ご支援・ご協力お願いいたします。



久が原の自然シリーズ⑱

昨年の6月に、久が原駅からライラック商店街の中程の建物にツバメが巣を作っているとの情報を頂き、早速見に行きました。小川建設株式会社の「すまいるステーション久が原」の正面玄関の真上にありました。「つばめのお家があります、頭上にご注意ください」

の注意書きがあり、家主さんの思いやりを感じました。

ツバメは雨風がしのげ、直射日光が当たらず、風通しの良い、天敵に襲われにくい場所として家やビルなど人がいるところに巣を作る習性があります。昔からツバメの巣は商売繁盛や安全の印として縁起が良いとされています。ツバメの生態は春に日本に渡来して繁殖期を迎え、雛は孵化から3週間程で巣立ちます。そして、秋になると南の国に渡り、冬を過ごし、春に再び日本に來ます。ツバメは毎年ほぼ同じ場所に戻ってくる習性があり、商店街の本屋のご主人も昔からツバメが来ていたと話していました。

ツバメの子育て

6月初旬の時は巣を見ただけでツバメの姿は見れず、下旬の夕方に再び訪れました。5羽の雛たちが口を開け鳴き声をあげているところに親ツバメが飛んで来て、餌をあげてはまた飛んでいき、餌を取ってきて雛にあげているのを見ることが出来ました。ツバメは飛びながら餌を取るそうで、カゲロウやハチ、ガなどの虫を食べます。お腹を空かした雛は、他の雛を押しつけ巢の端っこで一番早く鳴き、親鳥から餌をもらいお腹がいっぱいになると巢の真ん中の方へ移動し、順に移動しながら雛は餌をもらっているようです。

写真に巣が2個写っていますが、右の巣はカラスに襲われ壊されたので、ガード付きの巣を家主さんが作られたそうです。

さすが「小川建設」さん！

地域の皆さんに温かく見守って頂き、子育てができるツバメ。今年も来ています。ライラック商店街を通るのが楽しみです。

(大竹 恵美子)





おもり十中って

地域の皆様、いつも温かいまなざしで本校を見ていただきありがとうございます。

本校では、笑顔と温かさあふれる教育を推進するために、先生と生徒がお互いの成長と、生徒と先生・生徒と生徒を認め合える心の育成をめざし、日々楽しい教育実践をしています。まずは、朝に笑顔で挨拶、授業は真剣に、主体的で深い学びの実践、元気あふれる学校行事(運動会・十字祭)の実施。

昨年は、大田区で初めての飛行機を利用した長崎修学旅行での平和学習。戦争や原爆を体験した方々による被爆体験講演、長崎平和公園、原爆資料館の見学等を通して学びを深めました。さらに、日本被団協がノーベル平和賞を受賞。「平和」を通して、人と人や地域との関わりを学ぶ良い年でした。

また、2年生職場体験のほか、ボランティア活動(地域小学校夏のワクワク体験、蒲田駅での募金活動、ふれあい久が原大運動会)を実践しています。



3月には、OBのオーボエ奏者「三木サトルと愉快的仲間たち」による三送会(※)で『ルパン三世』から始まり、『星に願いを』『G線上のアリア(Jazz ver.)』など、最後に『旅立ちの日に』の演奏で、学校全体が一つになって盛り上がりました。

※在校生が三年生を送る会

大森第十中学校 前校長 相佐 光慶



手をつないで
木の神様に感謝!



森との出会い

私たちシニアクラブでは、年に何回か「遠足」と呼ぶ散策をします。今回は以前から提案があった林試の森公園(品川区、目黒区)に行くことになりました。

シルバーパスを使い、東急バスで田園調布駅で集合。目黒線に乗り換えて武蔵小山で下車、

駅裏の細い通りを歩くこと5分程、突然樹々が見えてきました。あつという間に、森に入り込んでいきました。とても都会のど真中とは思えない森の中に導かれていくようでした。まわりは、高い木でおおわれています。一つの碑が見えてきました。「平成元年に公園として整備公開」とあります。うっそうとした森を見ると、私たち日本人は戦争をしながらも樹々の研究をし、大切にしてきたことを強く感じました。

林試の森公園の由来は、林業、森林の研究、試験場の跡地。古来から、木や森を大切にしていた日本の伝統を忠実に守ろうとした研究だったのですね。目の前の大木に目を見張り、その大きな太い幹に手をかざしてみると、太古からつながっていたであろう生命力を感じます。それがこの写真です。

大きな広い森の癒しを楽しんだ一日でした。

久が原シニアクラブ 児玉 晴江

イベント情報

- ◆ヒルズ久が原打ち水・納涼の夕べ
【開催日】8月3日(日)
【場 所】ヒルズ久が原 中庭
- ◆道々橋自治会子ども会・子ども食堂
【開催日】8月30日(土) 10時～
【場 所】道々橋八幡神社
- ◆久が原東部八幡神社例大祭
【開催日】9月6日(土)
【場 所】久が原東部八幡神社
- ◆久が原西部八幡神社例大祭
【開催日】9月13日(土)
子ども御神輿、山車の巡行
9月14日(日)
大人御神輿渡御
【場 所】久が原西部八幡神社

《問い合わせ先》久が原特別出張所
03-3752-4271

【編集後記】

戦争を語り継ぐでは、B29のエンジンが燃えながら6丁目の一軒家(今は宗教法人の場所)に落ちました。夜なので激しく燃えてるさまを、柳平さんの見えたままに語っています。米軍には女性の軍人もいたので、搭乗していたかもしれませんが検証されていません。久が原図書館所蔵「久が原の昭和史」の中にも記載されています。

夏の猛暑は気が付かないうちに熱中症になりやすいです。こまめな水分補給と冷房で涼しく過ごしてください。

大竹 恵美子

戦争を語り継ぐ B29が落ちてきた



昭和20年5月25日 山の手大空襲の日、当時16歳の私は空襲警報とラジオの声を聴きながら(我が家は前の空襲で焼かれたため瓦礫の上で)空を見上げていました。B29の5、6機の中の1機に高射砲がまぐれのように命中。自分の頭の上に火の玉がきりもみしながら落ちてくるようでした。私は必死に前の坂を上って逃げたつもりでしたが、どうやら落ちる方向に逃げてしまったらしく、ほかに誰もいない中、たった1人で燃え盛る機体を呆然と眺めていました。何より驚いたのは、ピンクや赤や黄色など、戦時中の日本では全く見ることのない鮮やかな色のドレスや白い花が開いたように広がるパニエ(※)。白い肌の女の人が4、5人倒れていて、まだ生きているようにも見えました。軍服を着た若い兵隊も何人か倒れており、お酒の瓶やチョコレートなどの銀紙などが宝石をちりばめたように

キラキラ光って見えました。トランプも散らかっていたと思います。戦闘機に女の人が乗っているなんて、お酒を飲みトランプで遊びながら?日本の特攻隊は?私たちの竹槍やバケツリレーは何?と考えてしまいました。

次の日、人だかりがしている場所へ行ってみると、パラシュートで降りた若い米兵が頭から溝にはまっており、「ぶっ殺せ」「息子を返せ」と憎しみのこもった怒鳴り声も浴びせられる中、「この子に罪はないじゃないか、上の命令で来たのだから」と必死になだめる年配の男性もいました。

米兵は大森の捕虜収容所に収監されたそうです。その後3か月で終戦になり送還されたとか。

※パニエ…女性用下着の一種。スカートを美しい形に広げるために着用する。

やなぎだいら もとこ
柳平 素子